

公開 I

## 図画工作 科学習指導案

授業者 古家美和  
学年・学級 6年1組  
授業日 10月5日(土)

### 1 題材 「使って楽しい焼き物」

「A表現」(1)イ、(2)イ、「B鑑賞」(1)ア、[共通事項](1)ア、イ…立体に表す活動

### 2 授業づくりについて

本学級の子どもたちは、これまでに油粘土を使って、生活の中で心に残っていることや住んでみたい町を楽しく想像して表す活動を行っている。材料や用具などの扱い方も巧みになり、経験や技能を生かして表したり、自分のこだわりを追究したりする姿も見られる。本題材で取り扱う焼き物に関しては、粘土を焼成して焼き物をつくった経験のある子どもは少ないことがアンケート調査から把握できた。焼き物の特徴や作り方についての理解は不十分であり、化学変化(焼成)を用いて生み出された焼き物のおもしろさや魅力に気づいていない子どもが多い。また、実際に使う用途や自分の思いを伝える目的、それを満たす条件について考えながら主題を表す経験についても乏しい。自分の感覚や思い、これまでの経験などを基に、生活の中で楽しく使うことを思い浮かべながら、自分のこだわりや他者への思いが詰まった焼き物をつくる子どもの姿を期待する。

本題材は、粘土でつくる様々な方法を生かして、目的や用途を考えながら、生活の中で実際に使えるように工夫して焼き物で表す活動である。自分だけのためのこだわりが詰まったもの、誰かを喜ばせたいという思いを込めてつくられたもの、どちらも生活をよりよくするものであることを実感し、土のよさを生かした焼き物をつくることで、楽しく豊かな生活を創造しようとする子どもの姿を願っている。主な材料である信楽粘土(白土)は、成形がしやすく、高温で焼くことができ、施釉やアクリル絵の具を用いて加飾することができるので、思いや意図に合わせて表し方を工夫することができる材料である。(今回は着色はなし)手や体全体の感覚を働かせて、感じたことや想像したことをどのように表すかを試行錯誤しながら考え、工夫する過程を大切にするとともに、相互鑑賞を通して、作品の面白さや工夫を感じ取ることで、新たな価値や意味を創造することにつなげたい。

指導に当たっては、導入において、自宅で実際に使っている焼き物を紹介し合うことで、焼き物についての興味・関心をもつことができるようにする。焼き物の特徴や用途、歴史について理解するために、兵庫陶芸美術館作成の「陶芸アートカード」を活用したり、ゲストティチャー(学芸員・陶芸作家)の話の聞いたりする。製作において、使い方や置く場所などを考えながら、造形的な特徴を捉えることができるように、適宜アイデアスケッチを描くように促す。その際、「使いやすさ」「大きさ」「飾り」等について考えるように提案するが、最初から細かく決めておく必要はなく、アイデアやイメージはつくりながら変わってもよいことを伝える。粘土で成形する際は、表したいことに合わせて、形、飾りを工夫して表す姿を共感的に見取る。表現と鑑賞の力が往還的に行き交う姿を引き出すため、製作中に友人と対話をしたり、表現のよさを見つけたりするなど適宜交流することを認める。終末には、実際に使うなどして相互鑑賞をし、表現の意図や工夫を出し合いながら、自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさについて感じ取ることで、自分の見方や感じ方を広げ、多様な価値があることや自分たちの力で生活を楽しく豊かにできることに気づけるようにする。

### 3 目標

- 用途を考えて、楽しく使える焼き物をつくるときの感覚や行為を通して、動き、バランスなどを理解する。  
また、表現方法に応じて釉薬を活用するとともに、切り糸、かきべら、のし棒などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。
- 粘土に触れて感じたこと、使う様子を想像したこと、見たことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題に表すかについて考える。実際に使うなどして自分たちの作品や生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。
- 主体的に用途を考えて、楽しく使える焼き物をつくる活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

### 4 学習の流れ（全4時間 本時1／4）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点・評価の方法等				備考
		知 知識	技 技能	思 発想や 構想	態 鑑賞	
1	・焼き物の特徴や用途、歴史などについて理解し、活動の見通しをもつ。	◎ 観察 対話 iPad		○		1時間目の導入と活動の計画では、「思考・判断・表現（発想や構想）」と関連付けて、「知識」の視点で学習状況を把握し、指導に活かす。 2時間目は、「知識・技能」に関連付けて、「思考・判断・表現（発想や構想）」の視点で学習状況を把握し、記録に残す。 3時間目は、「思考・判断・表現（発想や構想）」に関連付けて、「技能」の視点で学習状況を把握し、記録に残す。 「主体的に学習に取り組む態度」は、活動全体を通して把握し、最後に記録に残す。
2	・生活の中で楽しく使える焼き物を考え、アイデアスケッチをかく。		○	◎ 観察 対話 スケッチ iPad		
3	・表したいことを基に、成形の方法を考え、表し方を工夫してつくる。 ・焼き物の目的や用途に応じて本焼きをする。		◎ 観察 対話 作品 iPad	○		
4	・できた焼き物に触れ、手触りや質感、立体感、重量感などを味わうとともに、友人の作品を見て、よさや美しさ、表現の意図を感じ取る。				◎ 観察 対話 iPad	

## 5 本時の学習（全4時間 本時1／4）

### 目標

焼き物の特徴や用途、歴史について理解したり、焼き物の表現のよさや多様性を感じたりして、活動の見通しをもつ。

### 準備物

（教師）焼き物、「陶芸アートカード」、陶片セット

（子ども）自宅で使っている焼き物、教科書、iPad

学習活動	指導及び評価のポイント
<p>1 学習課題を知る。(5分) 「家で使っている湯呑みだよ。」 「幼稚園でお皿を作ったことがある。」 「おばあちゃんの花器を持ってきたよ。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅から持ってきた焼き物やタブレットで撮った焼き物の写真を見合うことで、焼き物が生活の様々な場面で使われていることを実感できるようにする。</li> <li>・焼き物をどのように使っているか、どこに置いているか等について発表し合うことで、焼き物への興味や関心をもつことができるようにする。</li> </ul>
<p>焼き物について理解し、活動の見通しをもとう</p>	
<p>2 焼き物の特徴や用途、歴史について知る。(30分) (1)「陶芸アートカード」を使って、自分の好みの焼き物を見つける。(5分) (2) 陶片を五感で鑑賞する。(5分) (3) 兵庫陶芸美術館の学芸員（仁尾一人氏）の話聞く。(20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縄文土器</li> <li>・弥生土器</li> <li>・須恵器</li> <li>・日本六古窯</li> <li>・焼き物の特徴</li> <li>・明治時代以降の焼き物</li> <li>・用途をもたない焼き物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「陶芸アートカード」の中から形や色などの造形的な特徴に着目して自分の好きな焼き物を選び、選んだ理由を交流する。</li> <li>・縄文土器や丹波焼の陶片に触れ、五感で鑑賞することで、焼き物ならではのよさを感じることができるようにする。</li> <li>・焼き物について、ゲストティーチャー（学芸員）の話の聞いたり、質問したりすることで、焼き物の特徴や用途、歴史について理解できるようにする。</li> <li>・日本の伝統的な焼き物だけでなく、ものを入れる「器」という枠を超えた焼き物による新たな造形表現についても取り上げることで、焼き物の楽しさや多様性について気づくことができるようにする。</li> <li>・社会科の歴史学習と関連づけて、大昔から生活の中で焼き物が使われていたことや、縄文土器も当時最新のテクノロジーを活用していたことにふれ、人類がよりよい生活のために工夫を重ねてきたことを想起できるようにする。</li> </ul>
<p>3 陶芸作家（あさうみまゆみ氏）の作品を鑑賞する。(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・焼き物について、ゲストティーチャー（陶芸作家）の話の聞いたり、質問したりすることで、焼き物での表現についての興味・関心を広げることができるようにする。</li> <li>・作家の作品を鑑賞することで、造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴を感じ取ったり考えたりし、自分の表したいことのイメージを描けるようにする。</li> </ul>
<p>4 ふり返りをする。(5分) 「日本の焼き物の歴史は古く、日本が焼き物大国ということがわかった。」 「家族も楽しめるお皿を作りたいな。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時は、生活の中で楽しく使える焼き物を粘土でつくることを伝え、活動への意欲をもつことができるようにする。</li> </ul> <p>○焼き物の特徴、粘土の成形や焼成などについて理解し、活動の見通しをもっている。【知識・技能】</p>